

令和3年度・4年度

八王子まるごとサポートセンター (はちまるサポート) 活動報告書

あなたもわたしも主役

つながりあい、支えあうまち はちおうじ



令和5年9月

社会福祉法人 八王子市社会福祉協議会

はちまるサポートの活動は、八王子市から委託された
重層的支援体制整備事業の一環として行っています。



はじめに

八王子まるごとサポートセンター(愛称「はちまるサポート」)は、平成26年3月に社会福祉協議会で策定した「第2次八王子市地域福祉推進計画(いきいきプラン八王子)の重点事業「地域福祉推進拠点(以下「拠点」)の運営」としてスタートしました。

拠点は、1. 福祉に関する各種相談の場、2. 住民による福祉ネットワークづくりの場、3. 懇談・学習の場とし、地域福祉推進に取り組む場と位置付け、市内各所での運営を目指しました。八王子市の協力もいただきながら、平成26年12月に1か所目の拠点を石川事務所2階に開設し、以降、社会福祉協議会の自主事業(市から補助金あり)として展開してきました。

令和3年度に、八王子市が「重層的支援体制整備事業」(以下「重層事業」)を実施するにあたり、拠点事業が重層事業に組み込まれ、八王子市が設置し、社会福祉協議会が運営するというスタイルに変更されました。これに伴い、当年10月に「八王子まるごとサポートセンター」(愛称:「はちまるサポート」)と名称変更も行い、より市民に身近な福祉相談窓口として再スタートしました。

重層事業において、各はちまるサポートでは、1～2名の職員-コミュニティソーシャルワーカー(以下「CSW」)を配置し、「包括的な相談支援事業」、「地域づくり事業」、「参加支援事業」に取り組んでおります。

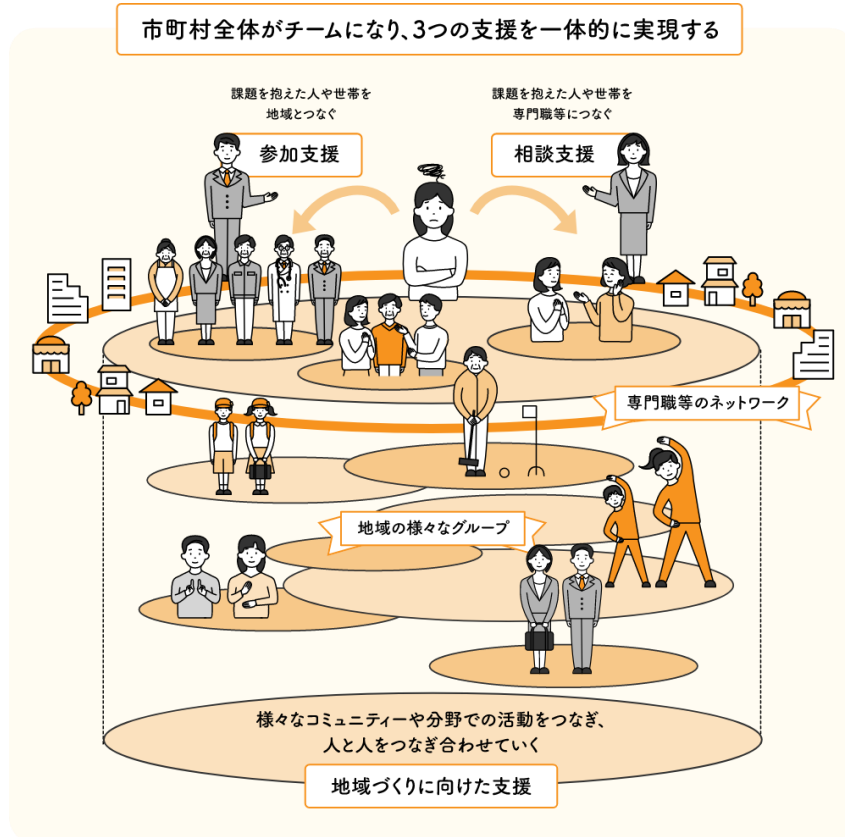
近年、地域生活課題の複雑化・複合化が顕著となり、既存の福祉サービスだけでは解決できない事例が増えております。ひきこもりや 8050, ごみをため込むなどの状態で暮らす方々がその一例として挙げられ、制度の狭間にある状態ともいわれます。このような状態の方々の背景には、精神的、身体的な課題を抱えていたり、生計が困難であったり、意欲を失っていたり、と様々な要因が隠れています。さらに、令和2年より、新型コロナウイルスが全国的に蔓延し、市民生活に大きな影を落としました。経済的に困窮する方々、人と人との関わりの変容、そのような生活から精神的・身体的不調をきたすなどコロナ禍は生活不安を増大させました。

はちまるサポートでは、このような状態にある方々、ご本人自らがその課題に向き合い、解決できるよう伴走型支援に力を注いでいます。

この報告書では、上記相談支援の状況の他はちまるサポートの場所や地域の特徴などを掲載しています。ご一読いただければ幸いです。

重層的支援体制整備事業におけるはちまるサポートの取り組み

重層的支援体制整備事業は、地域共生社会の実現を目指すための体制整備事業として、「属性を問わない相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」を一体的に実施する新たな事業として、令和3年4月に国が創出しました。八王子市は同年より取り組みをはじめ、社会福祉協議会が事業受託し実施しています。



“引用”

厚生労働省

地域共生社会のポータルサイト

<https://www.mhlw.go.jp/>

[kyouseisyakaiportal/](https://www.kyouseisyakaiportal/)

上記図のとおり、3つの支援を一体的に実施することを目的に、下記の5つの事業が位置付けられています。

包括的相談支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・属性や世代を問わず、包括的に相談を受け止める ・支援機関のネットワークで対応する ・複雑化・複合化した課題については適切に多機関協働事業につなぐ
参加支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・社会とのつながりを作るための支援を行う ・利用者のニーズを踏まえた丁寧なマッチングやメニューをつくる ・本人への定着支援と受け入れ先の支援を行う
地域づくり事業	<ul style="list-style-type: none"> ・世代や属性を超えて交流できる場や居場所をつくる ・交流・参加・学びの機会を生み出すために個別の活動や人をコーディネートする ・地域のプラットフォームの形成や地域における活動の活性化を図る
アウトリーチ等を通じた継続的支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が届いていない人に支援を届ける ・会議や関係者のネットワークの中から潜在的な相談者を見つける ・本人との信頼関係の構築に向けた支援に力点を置く
多機関協働事業	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村全体で包括的な相談支援体制を構築する ・重層的支援体制整備事業の中核を担う役割を果たす ・支援関係機関の役割分担を図る

はちまるサポートは、「包括的相談支援事業」「参加支援事業」「地域づくり事業」「アウトリーチ等を通じた継続的支援事業」に取り組み、地域共生社会実現を目指し活動しています。

目次

○八王子まるごとサポートセンター(はちまるサポート)活動報告

1.八王子まるごとサポートセンター(愛称:はちまるサポート)とは -P.2

2. CSWとは？

「個別支援」「地域生活支援」「地域支援」3つの働きをする地域福祉の専門職

3. 八王子まるごとサポートセンターの設置状況 -P.3

4. 八王子まるごとサポートセンターが担当する地域の特徴(圏域別) -P.5

5. 活動実績 -P.7

包括的相談支援事業 … 個別、地域からの相談件数 -P.7

参加支援事業 … はちまるファーム -P.13

地域づくり支援事業 … 地域共生のまちづくり推進フォーラム -P.15

6. 八王子まるごとサポートセンター相談事例集 -P.17

事例①:外国籍の母と課題を抱える娘～それぞれが進む道～

事例②:住み慣れた家で生活し続けたい！～地域での見守りと専門的な見守り体制の構築～

事例③:30年以上ひきこもり男性が長髪を30cmカットするまで

○はちまるサポートの活動から見てきた地域課題と今後の方向性 -P.28



1. 八王子まるごとサポートセンター(愛称:はちまるサポート)とは？

八王子まるごとサポートセンターは、地域の身近な「福祉総合相談窓口」です。年齢や性別、障がいの有無は問いません。本人や家族に寄り添いながら、各種関係機関と協力して困りごとの解決を目指す「包括的な相談窓口」として活動しています。困りごとだけでなく、地域の為に活動したいという方もご相談ください。

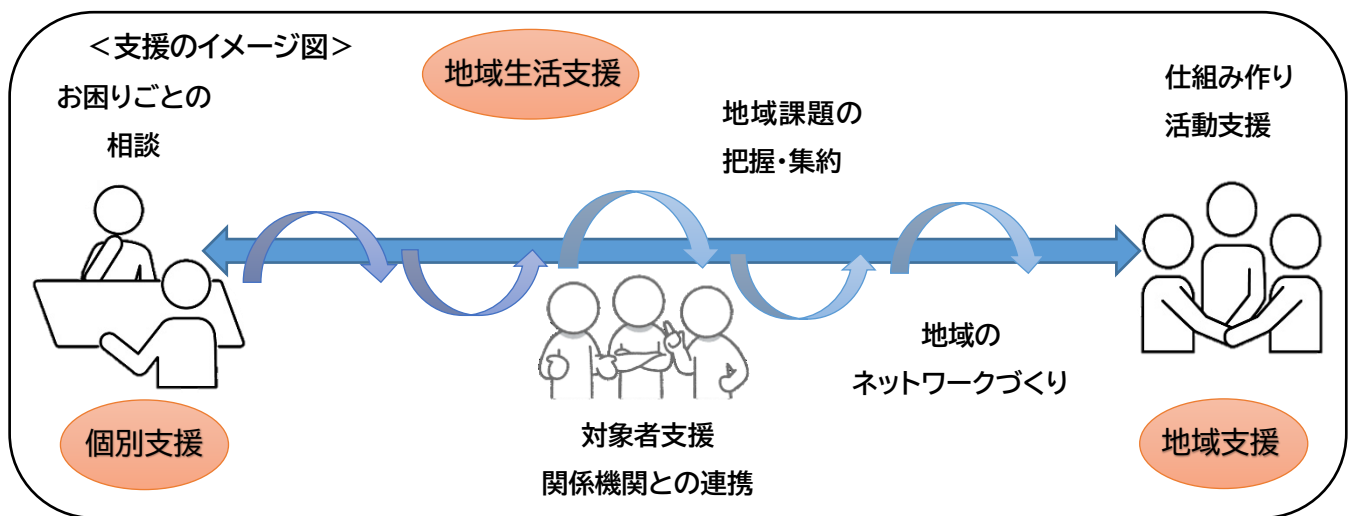
現在、八王子まるごとサポートセンターには相談員である CSW(コミュニティソーシャルワーカー)が1~2名体制で常駐しています。

2. CSW とは？…「個別支援」「地域生活支援」「地域支援」 3つの働きをする地域福祉の専門職

複雑かつ多様化する個別的な相談、どこに相談すればよいかわからない“困りごと”などの相談に対して寄り添いながら、相談者ご本人自らが課題解決できるよう、支援します。【個別支援】

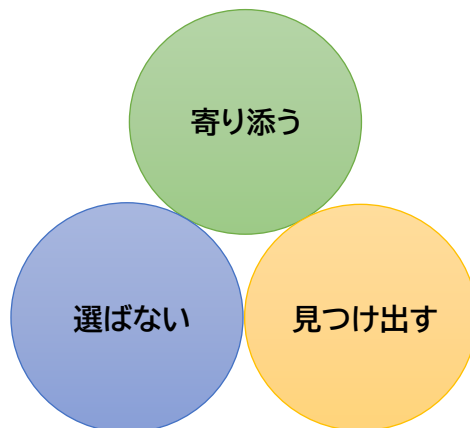
相談内容に応じて、法制度の支援(フォーマル)に加え、地域住民による支援(インフォーマル)を組み合わせ、ご本人が地域で安心して生活できるよう支援します。【地域生活支援】

また、地域に共通しているような課題には、地域ぐるみの支援の仕組みづくりを住民の方々と共に取り組みます。【地域支援】



【CSW の3つの心得】

CSW は相談受付や支援活動にあたり、地域生活上の様々な課題を対象や内容に関わらず、以下の3つの心得をもって、地域福祉の実践に努めています。

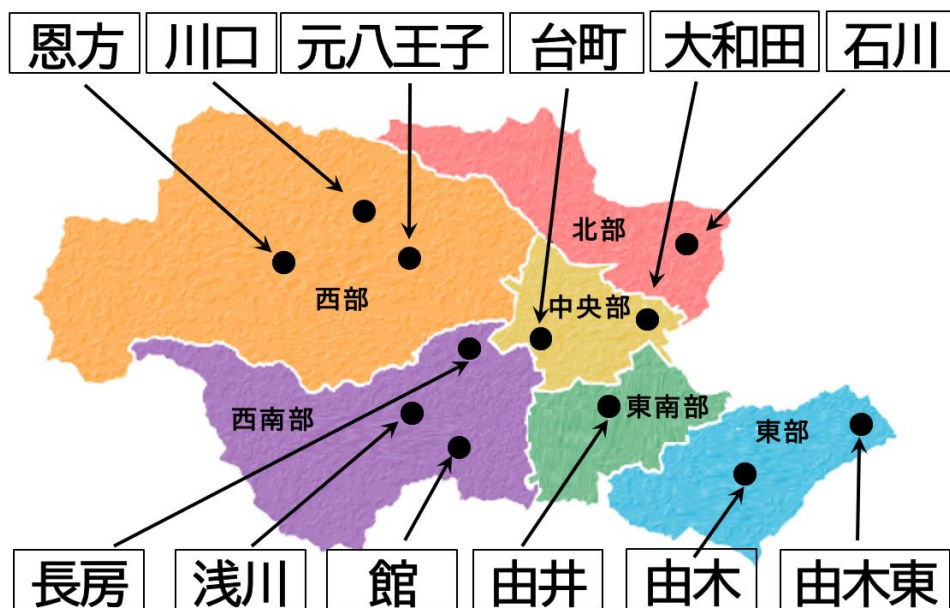


3. 八王子まるごとサポートセンターの設置状況

令和4年度末までの八王子まるごとサポートセンターの設置状況は以下のとおりです。

年度	拠点数	開設	圏域	備考
平成26年度	1	地域福祉推進拠点石川	北部圏域	市内で初めての地域福祉推進拠点を開設
平成29年度	2	地域福祉推進拠点川口	西部圏域	配置するCSWを専従化
	3	地域福祉推進拠点浅川	西南部圏域	
	4	地域福祉推進拠点大和田	中央圏域	
平成30年度	5	地域福祉推進拠点由井	東南部圏域	市内全6圏域に設置CSWが全圏域で対応可能になる
	6	地域福祉推進拠点由木	東部圏域	
平成31年度	7	地域福祉推進拠点由木東	東部圏域	
令和元年度	8	地域福祉推進拠点台町	中央圏域	
令和2年度	9	地域福祉推進拠点恩方	西部圏域	
令和3年度	4月より 重層的支援体制整備事業を受託			10月より「地域福祉推進拠点」から「はちまるサポート」に変更
	10	八王子まるごとサポートセンター長房	西南部圏域	
令和4年度	11	八王子まるごとサポートセンター元八王子	西部圏域	
	12	八王子まるごとサポートセンター館	西南部圏域	

令和4年度末時点、CSW(コミュニティソーシャルワーカー)は12拠点に23名配置されています。



圏域別担当区域

圏域	八王子まるごとサポートセンター	担当区域
北部	石川	高倉町、石川町、平町、宇津木町、小宮町、久保山町、大谷町、丸山町、尾崎町、左入町、滝山町、梅坪町、谷野町、みつい台、丹木町、加住町、宮下町、戸吹町、高月町、中野山王二丁目8
西部	川口	犬目町、上川町、川口町、檜原町、美山町
	恩方	下恩方町、上恩方町、西寺方町、小津町
	元八王子	元八王子町、上菅分方町、諏訪町、四谷町、泉町、叶谷町、大楽寺町、式分方町、川町、横川町、長房町(つつじヶ丘地区 194-2 番地、196 番地、197-16 から 22 番地、202-1 から 4 番地)
西南部	浅川	裏高尾町、高尾町、廿里町、西浅川町、狭間町、初沢町、東浅川町、南浅川町、散田町
	長房	城山手、長房町(水崎町会、194-2~197-22、202-4 を除く)、並木町
	館	寺田町、櫛田町、館町、大船町、めじろ台、山田町
中央	大和田	緑町、横山町、八日町、本町、元横山町、田町、新町、明神町、東町、旭町、三崎町、中町、南町、中野町、暁町、中野山王、中野上町、清川町、大和田町、富士見町、大谷町の一部
	台町	追分町、千人町、日吉町、元本郷町、長房町(水崎町会)、八幡町、八木町、平岡町、本郷町、大横町、小門町、台町、子安町、寺町、万町、上野町、天神町、南新町、緑町、旭町 1-18、小比企町 846
東南部	由井	小比企町、片倉町、西片倉、宇津貫町、みなみ野、兵衛、七国、北野町、打越町、長沼町、絹ヶ丘、北野台
東部	由木	上柚木、越野、下柚木、中山、南陽台、別所、堀之内、松木、南大沢、鎌水
	由木東	大塚、鹿島、東中野、松が谷

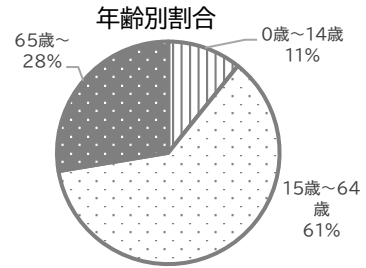
4. 八王子まるごとサポートセンターが担当する地域の特徴(圏域別)

八王子市全体

人口データ

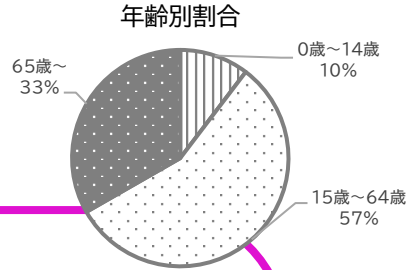
(八王子市令和5年3月現在)

- ・面積 186.38 km²
- ・圏域人口 561,034人
- ・0~14歳 60,296人
- ・15~64歳 345,680人
- ・65歳以上 155,058人
- ・高齢化率 27.63%



西部圏域

- ・面積 73.343 km²
- ・圏域人口 95,006人
- ・0~14歳 9,826人
- ・15~64歳 53,564人
- ・65歳以上 31,616人
- ・高齢化率 33.3%



*市内圏域図

(「八王子ビジョン2022(八王子市基本構想・基本計画における地域)」に基づく地域区分)



はちまるサポート川口 平成29年4月開設

川口事務所内、CSW2名

【地域の特徴】「おらがふるさと子どもは宝」を強調したまちづくりが実施され、若い世代が移り住んできている。豊かな自然と郷土愛に満ちた地域。

はちまるサポート恩方 令和2年4月開設

恩方事務所内、CSW2名

【地域の特徴】自然豊かで古くからの住民が多く、住民間のつながりが強いほか自助の意識も高く持っており、自主活動がさかんな地域である。

はちまるサポート元八王子 令和4年10月開設

元八王子事務所内、CSW3名

【地域の特徴】丘陵地で分譲住宅や戸建てが多く、移動は車やバスを利用。交通の便が届かない場所の方は移動販売を活用している。八王子城跡付近は整備され、散策がてら歴史に触れることができる。

西南部圏域

はちまるサポート浅川 平成29年3月開設 浅川市民センター内、CSW1名

【地域の特徴】浅川の最寄り駅である高尾駅は多くの登山客で賑わう。一方圏域内の山間部は豪雨・土砂災害の影響を受けやすい地域も多数ある。

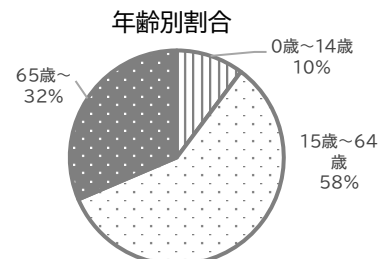
はちまるサポート長房 令和4年2月開設 長房ふれあい館内、CSW2名

【地域の特徴】団地が大部分を占めているが、古からの戸建住宅もある。団地内に大型商業施設があり、近隣からの買い物客も多い。

はちまるサポート館 令和5年2月開設 館事務所内、CSW1名

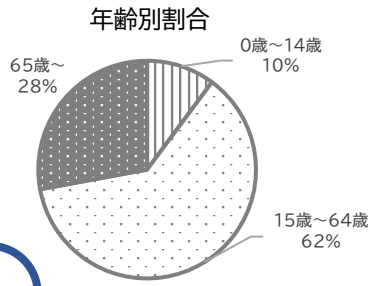
【地域の特徴】圏域内には高齢化率が高い団地や移り住んで来られた方の戸建て住宅群が混在している。

- ・面積 40.655 km²
- ・圏域人口 98,060人
- ・0~14歳 10,031人
- ・15~64歳 57,224人
- ・65歳以上 30,805人
- ・高齢化率 31.4%



北部 圏域

- ・面積 22,609 km²
- ・圏域人口 46,052人
- ・0~14歳 4,677人
- ・15~64歳 28,530人
- ・65歳以上 12,845人
- ・高齢化率 27.9%

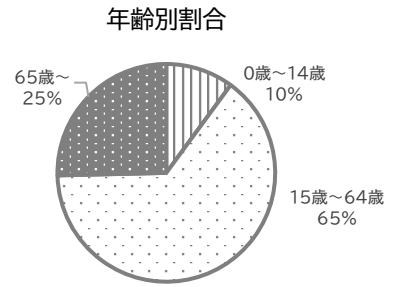


はちまるサポート石川 平成26年12月開設

石川事務所内、CSW2名

【地域の特徴】 東北部に位置し谷地川が東西に流れ多摩川に注いでいる。近隣市部に接しており、古からの戸建住宅や新興住宅地、団地が混在している。

- ・面積 12,838 km²
- ・圏域人口 128,220人
- ・0~14歳 12,911人
- ・15~64歳 82,782人
- ・65歳以上 32,527人
- ・高齢化率 25.4%



中央 圏域

はちまるサポート大和田 平成29年3月開設

大和田市民センター内、CSW2名

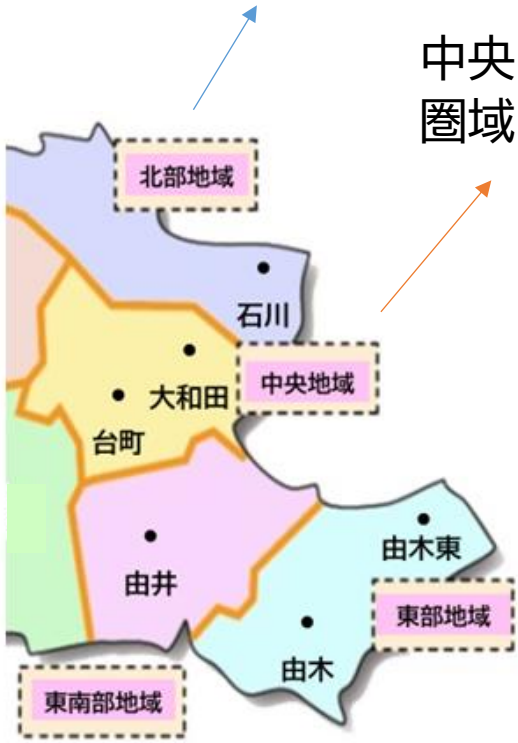
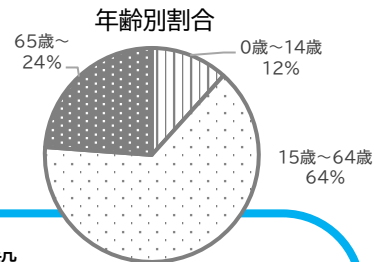
【地域の特徴】 中高層マンション、戸建住宅、団地が混在している。京王八王子駅やJR八王子駅に近く利便性が高いため人口が多い。

はちまるサポート台町 令和2年3月開設

台町市民センター内、CSW1名

【地域の特徴】 中高層マンション、商店、戸建住宅が混在している。JR八王子駅やJR西八王子駅に近く利便性が高いため人口が多い。

- ・面積 21,376 km²
- ・圏域人口 111,311人
- ・0~14歳 13,005人
- ・15~64歳 71,786人
- ・65歳以上 26,520人
- ・高齢化率 23.8%



東部 圏域

はちまるサポート由木 平成30年2月開設

由木中央市民センター内、CSW2名

【地域の特徴】 集合住宅と戸建てのエリアが分かれて存在しており、生活圏はほぼ多摩市。昨今魅力あるまちづくりのための住民活動も見られる。

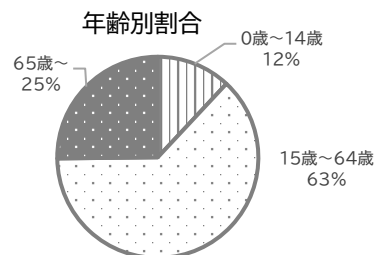
はちまるサポート由木東 令和元年6月開設

由木東事務所内、CSW2名

【地域の特徴】 多摩ニュータウン開発で整備され、集合住宅が多い地域。大学や公園が多く、また大型商業施設もあり、休日は賑わいを見せている。

東南部 圏域

- ・面積 14,478 km²
- ・圏域人口 82,385人
- ・0~14歳 9,846人
- ・15~64歳 51,794人
- ・65歳以上 20,745人
- ・高齢化率 25.2%



はちまるサポート由井 平成30年10月開設

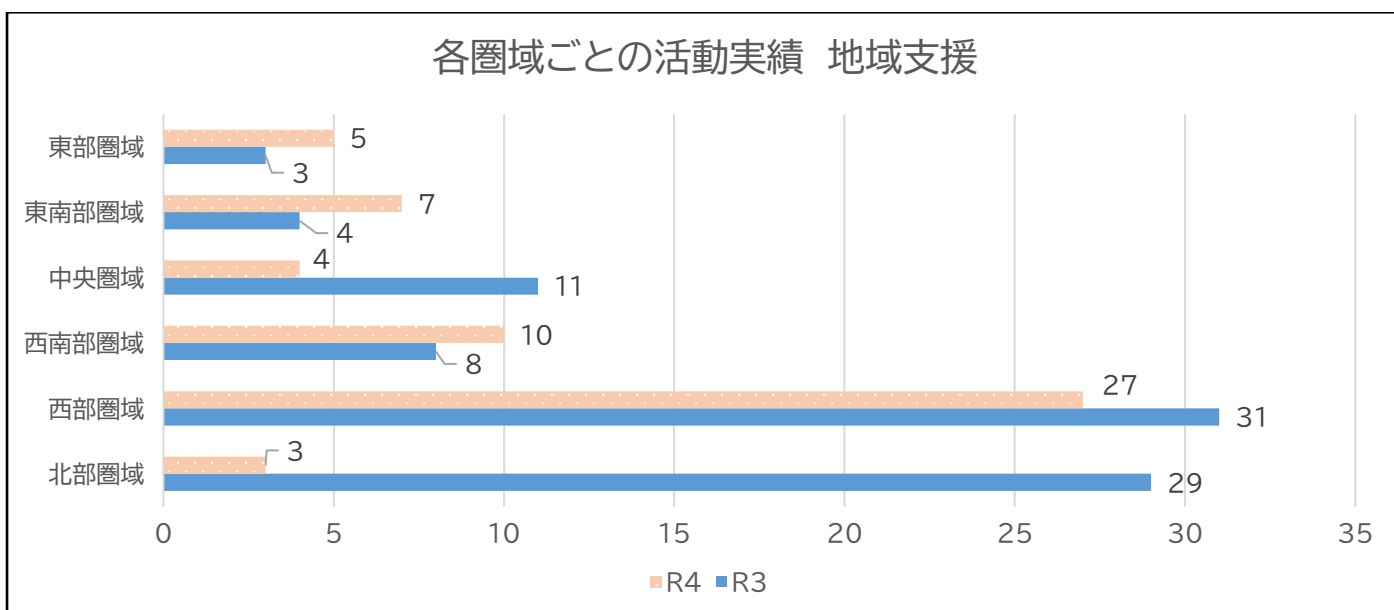
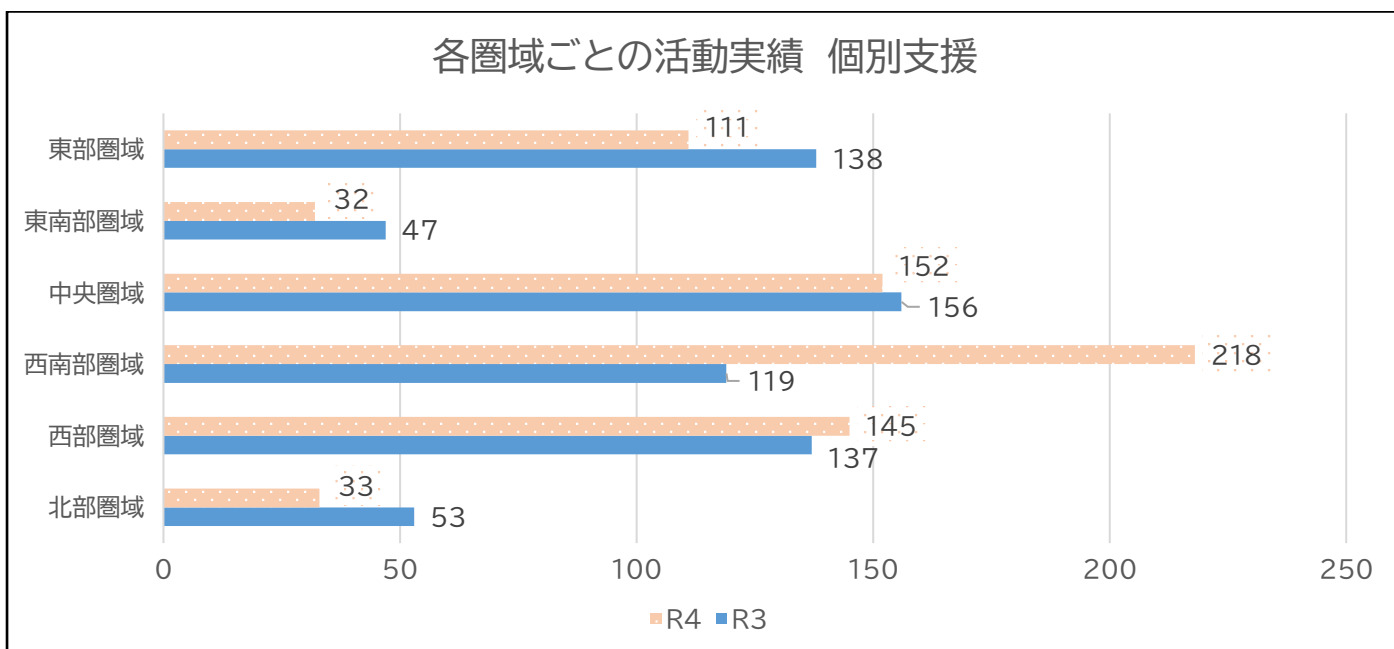
由井市民センター内、CSW2名

【地域の特徴】 マンションと戸建住宅が混在しつつ、公園や農地、牧場があり自然も見られる地域。比較的利便性が高く、高校や大学もある。

5. 活動実績

《包括的相談支援事業》 … 個別、地域からの相談件数

(1) 新規相談件数（全域） 令和3年度 個別:650件/地域:86件
令和4年度 個別:691件/地域:56件



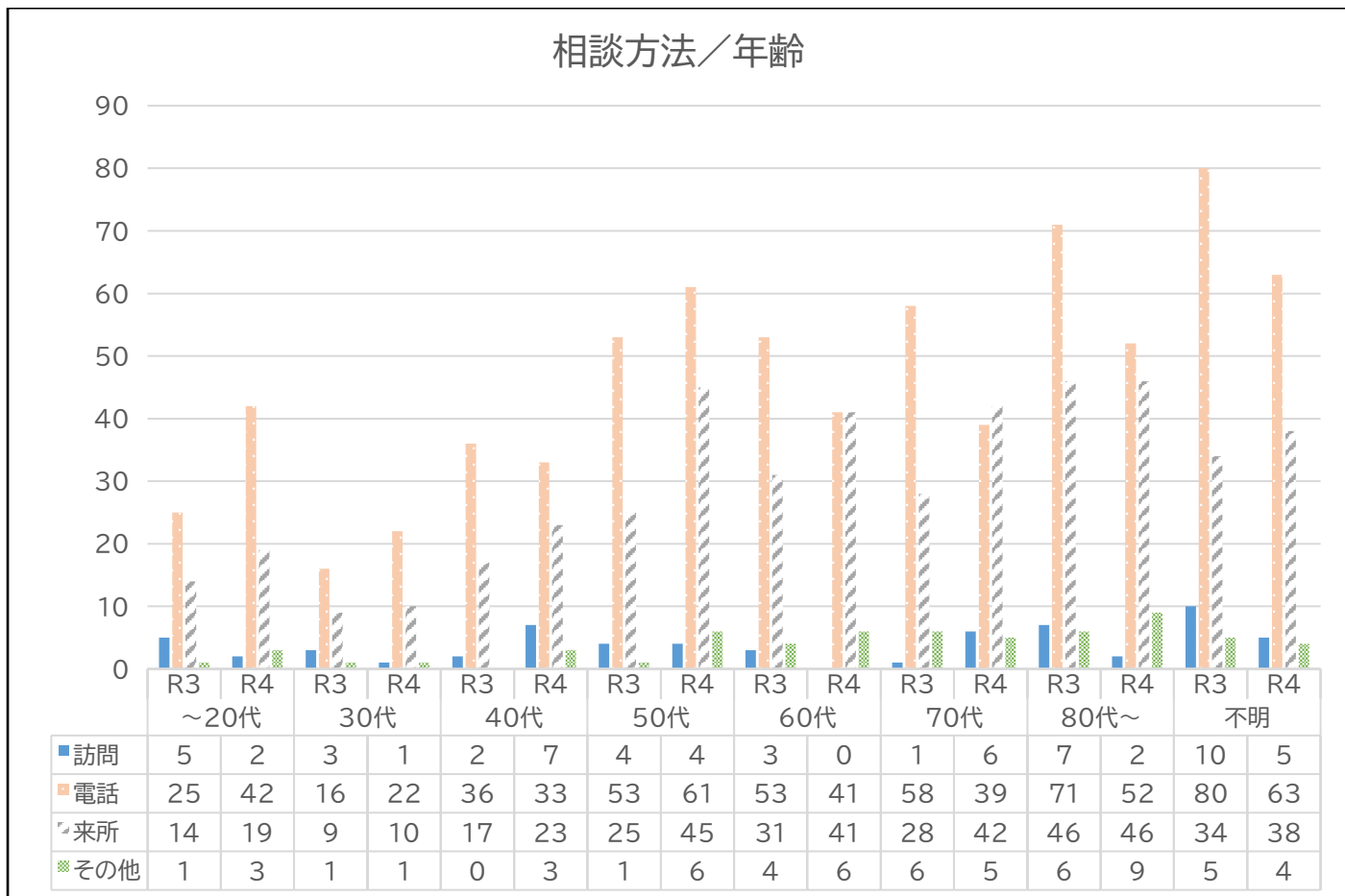
個別・地域の件数は例年通りとなっている圏域が多い。

個別では令和4年度に設置したはちまるサポートが3拠点あり、そのうち2拠点を開設した西南部圏域は相談件数が多くなっている。

地域では、北部圏域及び西部圏域が継続、新規で相談を受けるケースが比較的多い傾向にある。

(2)個別相談

①相談者(個別)年齢と相談方法 令和3年度 個別:650件 令和4年度 個別:691件

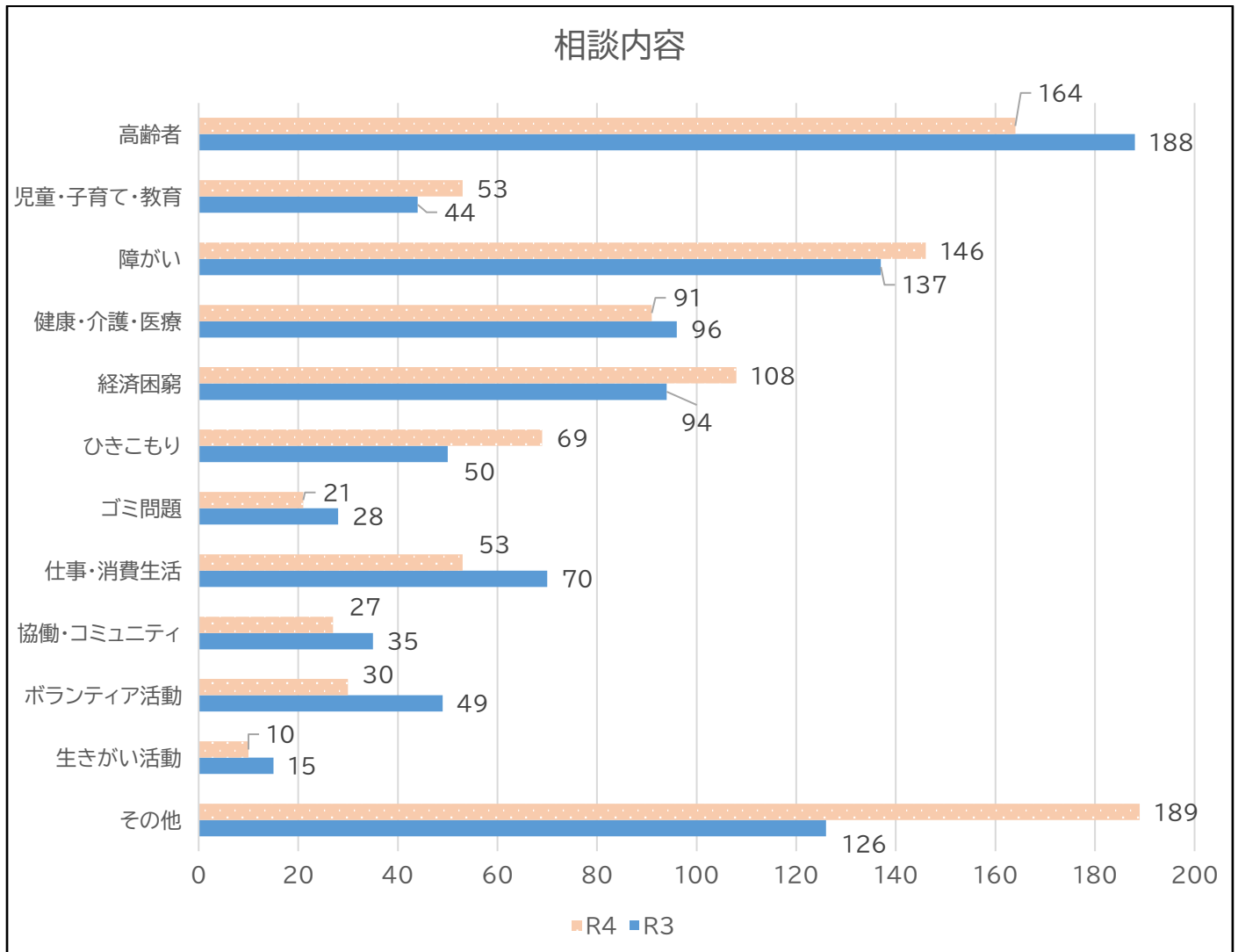


◇相談者年齢

これまで 70 代以上の高齢者の方のご相談が中心であったが、現役世代(40 代・50 代)からのご相談も入るようになってきている。
電話では個人情報を伏せてご相談される方も多く、年齢が不明となっているケースが増えている。

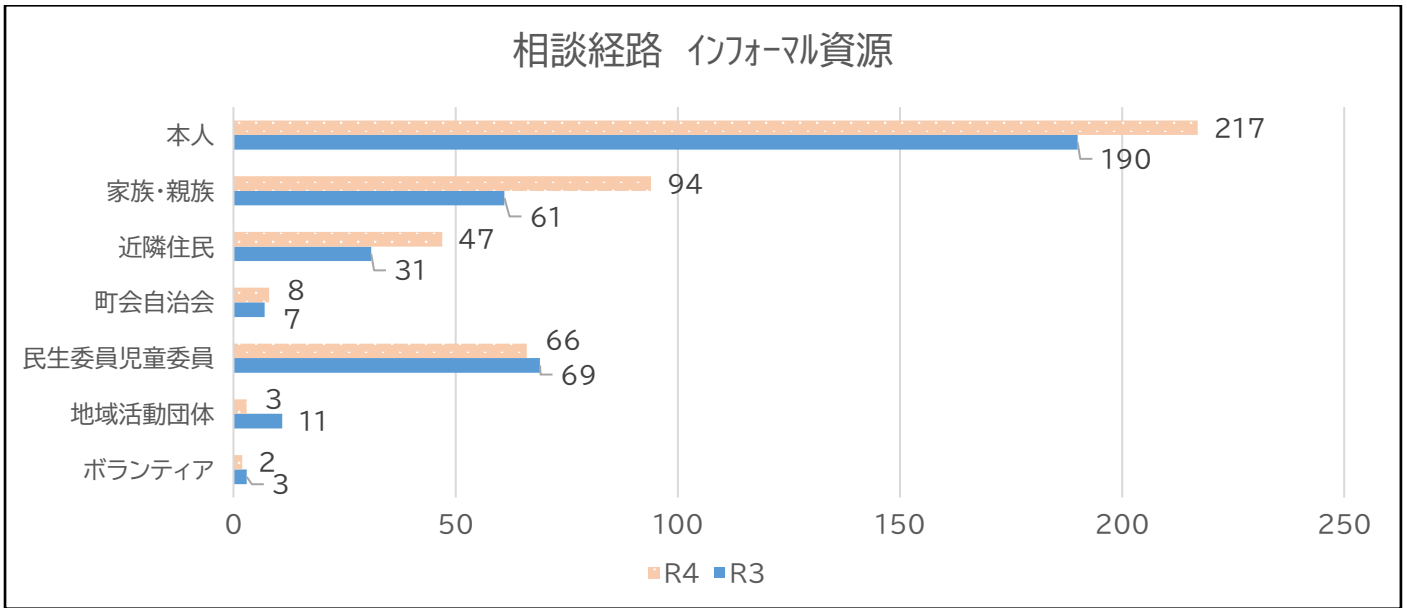
◇相談方法

八王子市は市域が広いため、電話でのご相談が中心となっているが、徐々にはちまるサポートの認知度が高くなってきたため、来所でのご相談も増加傾向にある。



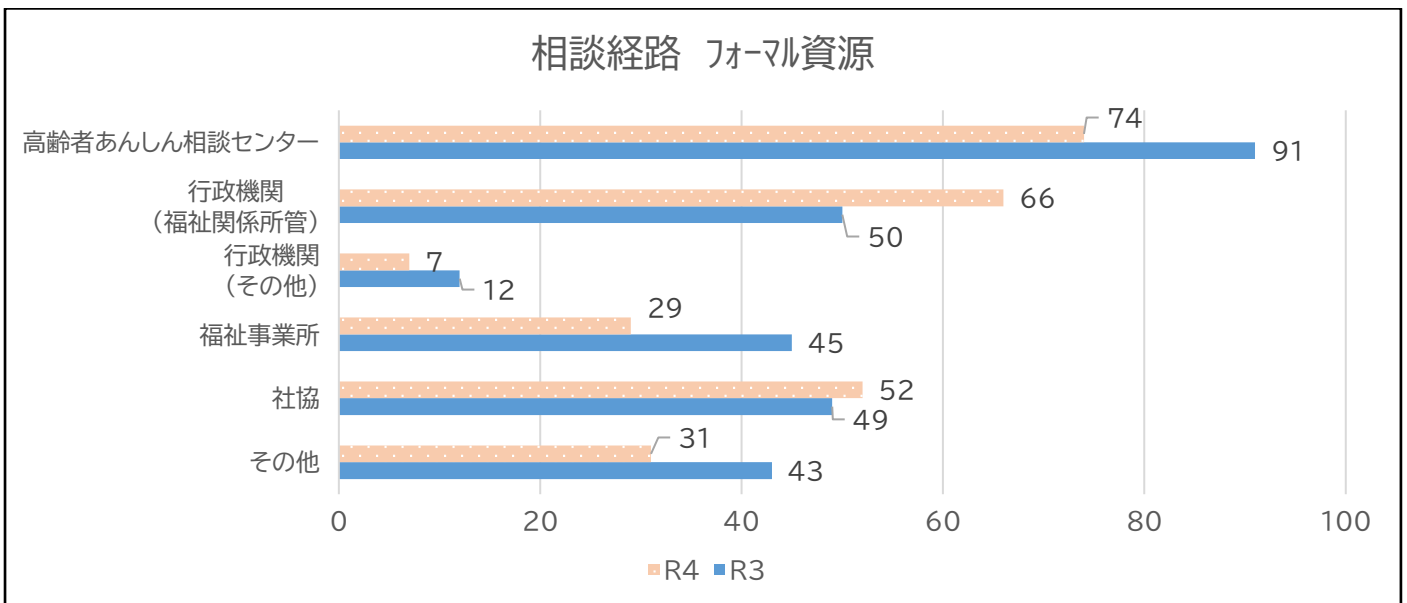
高齢者に関連するご相談が多いほか、経済困窮や仕事・消費生活に関するご相談が、コロナ禍の令和2年3月以降より増加傾向にある。
 その他を細かく分類すると「書類手続き」や「近隣トラブル」、「家族・親族間トラブル」
 「孤独・孤立・漠然とした不安の訴え」などが多い内訳となっている。

③ 相談経路(属性の重複あり)



その他の項目一例

元民生委員、同居人、匿名手紙(近隣住民等から) など



その他の項目一例

医療機関、弁護士、アパート管理会社 など

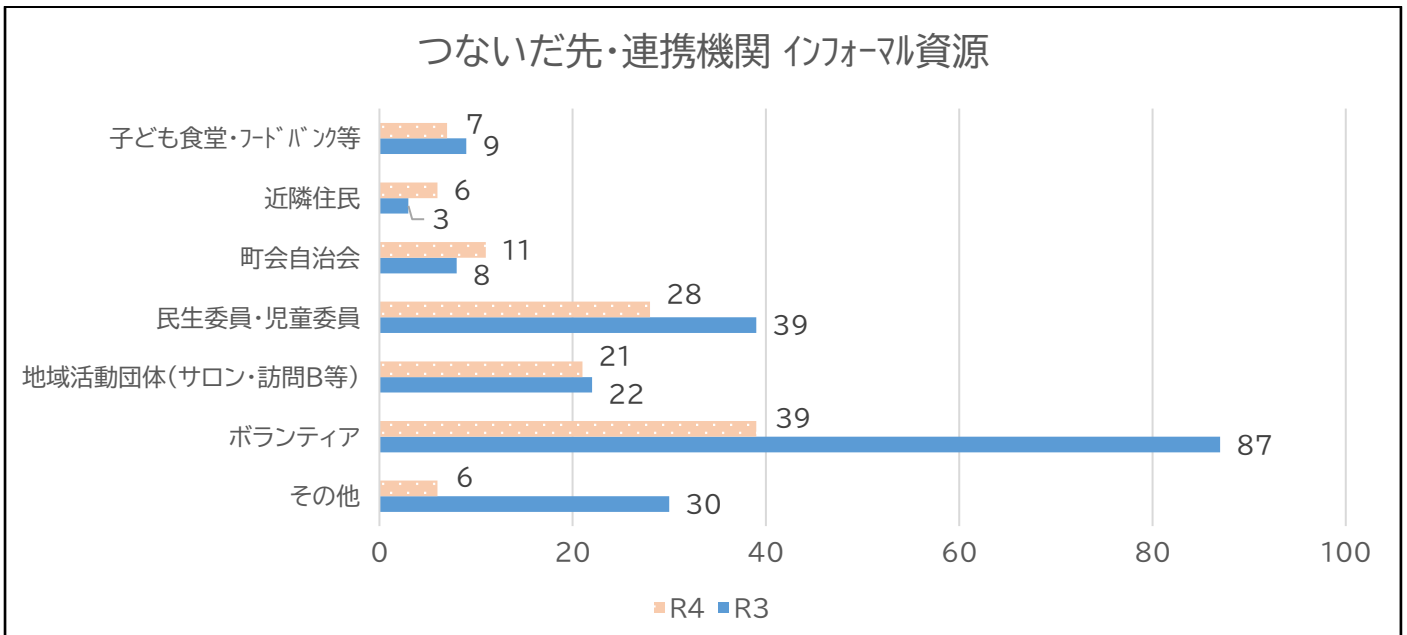
※フォーマル資源は、公的なサービスや民間企業等を指している。

インフォーマル資源は、親族やご近所などのフォーマル資源以外を指している。

相談件数の総数の増加に伴い各相談経路が増加傾向にある。
特に高齢者あんしん相談センター(地域包括支援センター)と普段からの連携が強化され、相談経路・繋ぎ先の両方で件数の増加が見られる。

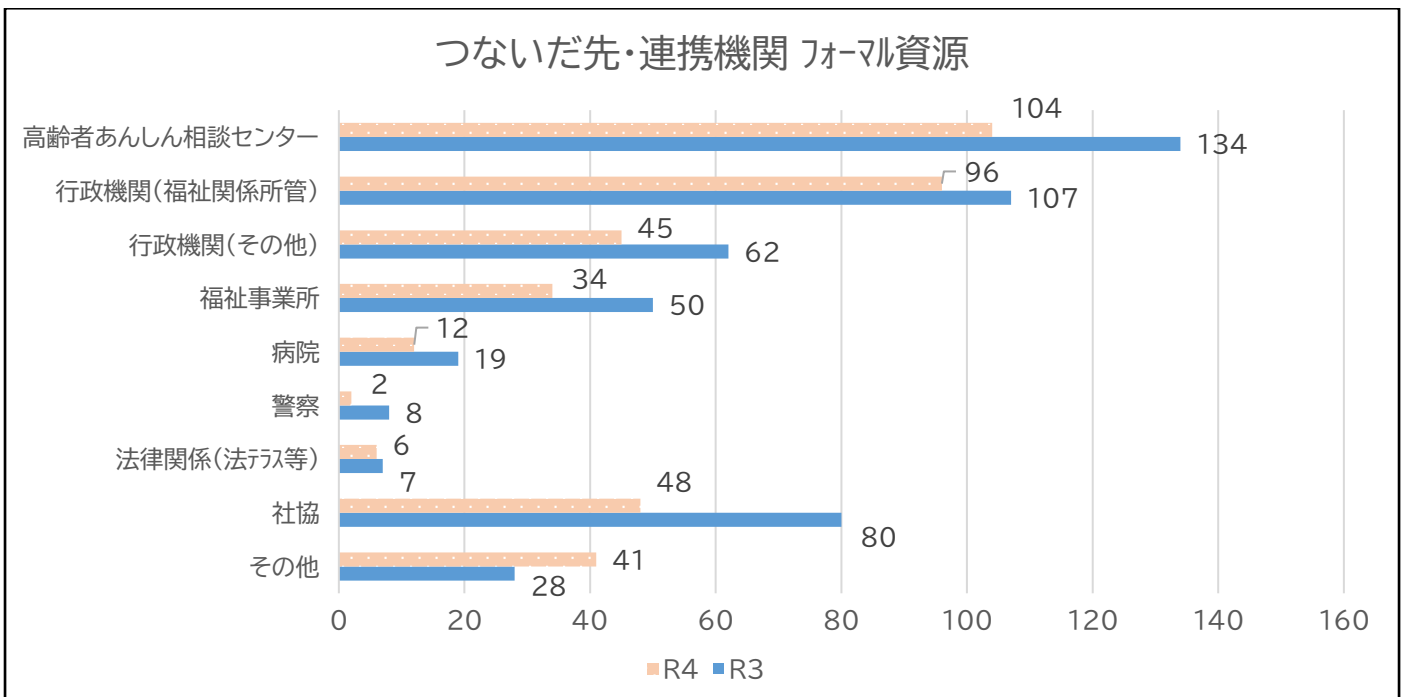


④ つないだ先(重複あり)



*その他の項目一例

教育機関、ハローワーク、ゴミ処理業者、動物保護団体、外国人支援団体 など



その他の項目一例

シルバー人材センター、見守りサービス、害獣駆除業者、東京都住宅供給公社、消費生活センター など

つなぎ先については、既存の関係機関だけでなく、民間の業者や地域団体など相談内容に対応可能な資源を探して、つなげている。

ただ、令和4年度はつなぎ先が見つからずに伴走型支援で継続的に関わる相談対応も増えてきており、今後は地域資源の開発にも目を向けていく必要がある。

(3)個別相談・地域支援（新規・継続合算）

①CSWの対応記録

圏域	訪問・同行		電話		窓口		会議	
	R3	R4	R3	R4	R3	R4	R3	R4
北部	144	183	391	486	116	108	7	0
西部	421	594	1,216	2,081	206	326	13	23
西南部	233	481	1,070	2,005	98	419	11	45
中央	190	304	617	811	127	245	21	40
東南部	83	69	549	327	90	49	6	7
東部	142	92	229	474	126	196	2	44
合計	1,213	1,723	4,072	6,184	763	1,343	60	159

②CSWの支援内容

個人直接支援			個人間接支援			地域支援		
内容	R3	R4	内容	R3	R4	内容	R3	R4
関係形成	181	219	関係形成	59	126	関係形成	110	239
個別支援	2,193	3,107	個別支援	1,375	1,143	立上げ支援	18	36
連絡調整	1,007	1,285	連絡調整	1,573	2,244	運営支援	172	202
—	—	—	—	—	—	連絡調整	342	423
合計	3,381	4,611	合計	3,007	3,513	合計	642	900

* 注 釈 *

個人直接支援：本人や対象世帯へ直接働きかけをしたケース

個人間接支援：本人について関係者や地域団体等と相談・調整をしたケース

地域支援：居場所づくり、地域活動団体等へ支援したケース

関係形成：本人・支援機関との関係づくりのための訪問や会議への参加など

個別支援：支援のための訪問・相談対応・状況確認・カンファレンスの実施など

連絡調整：本人・支援機関との連絡調整、簡単なやり取りなど



CSWは、継続的な個別支援や地域との関わりの中で、訪問型の支援(アウトリーチ)や地域に出向くことが、個別・地域支援のいずれにおいても効果的であることを日々感じている。今後も、地域住民や関係機関と連携しながら、地域でアウトリーチ支援を積極的に進めていく。

参加支援事業【はちまるファーム】

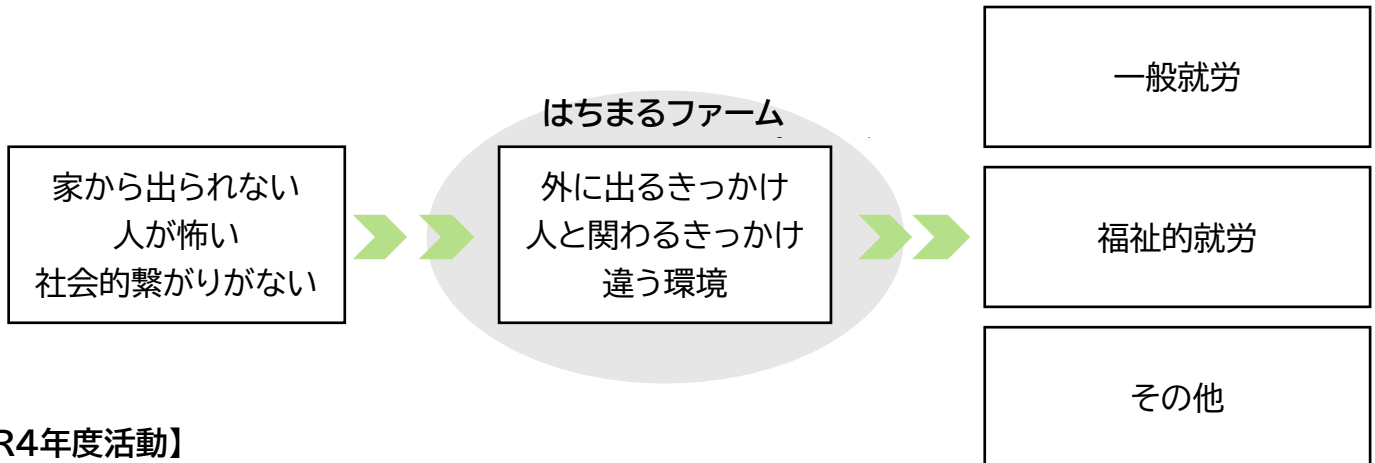
【取組主旨】

様々な生きづらさを抱え、地域社会への参加や交流が希薄となっている方々に、農地を活用して地域交流の場を提供し、地域参加の促進を図る。

また、そこに携わる地域の方々との交流や農作業を通じたコミュニケーションにより、相互理解、地域理解を広げていく。

【はちまるファームの位置づけ】

社会に出る第一歩目の「ゆるやかな居場所」として、CSW がその参加を支援する



【R4年度活動】

「どのような畑を目指すか？」ということの話合いからスタート

最初の半年間は、社協職員が実際に畑作業を体験し学び、地域の方との信頼関係を構築した
秋の収穫時期に合わせて、CSW が関わる相談者や不登校支援団体への参加を提案



【イベント開催】

・さつまいも掘り

開催日：令和4年10月19日(水)・26日(水)開催

参加者：11名



2日間に分けて開催し、小学生～50代まで幅広い世代の参加となった。

地域の方にとっては、社協職員以外の参加は初めてであったが、作業のレクチャーや参加を労う言葉をかけてくれ、コミュニケーションが生まれた。

・さといも掘りと芋煮会

開催日：令和4年12月7日(水)・13日(火)開催

参加者：7名



さといも掘り(畑作業)と芋煮会(調理)、2つのメニューを用意して開催。

調理ならやってみたい、と畑作業に消極的であった方の参加も見られた。調理には、地域の子ども食堂のスタッフもボランティアとして参加し、地域の中で世代や分野を超えた交流が見られた。

【参加者の感想(一部)】

・10代男性

地域の人は優しく、丁寧に芋の掘り方を教えてくださいました。この楽しさをみなさんと一緒に味わいたいです。終わった後には色々な野菜をいただいたので美味しく食べてみたいです。

・不登校児母

今日はとても楽しかったです。普段あまり外出する機会がないので、気分転換になりました。娘も緊張したけれど、楽しかったと話していました。

“不登校”ということにフォーカスされない地域の方々との交流はとてもありがたく、娘を娘のままで関わってくださって嬉しかったです。本当にありがとうございました。

・不登校児母

汚れること、草むら恐怖症の娘がこんなにも楽しめるのは驚きでした。ほうれん草の種をまく時も、素手で種を触るなんて普段では考えられないです。

みんなで協力する楽しさをたくさん体験させていただき、大変ありがたく思います。「次は、11月に里芋ほりだって！」と次回も楽しみにしております。

・30代男性

家に1人でいると色々なことを考えて不安になってしまうけど、畑作業の間は時間を忘れて没頭している感じでした。楽しかったです。収穫したネギで食べたお鍋がおいしかったです。



地域づくり事業【地域共生のまちづくり推進フォーラム】

わたしたちが いま できること～8050？ひきこもり？一緒に考えてみませんか？～



【開催趣旨】

昨今社会問題となっている8050問題、不登校・ひきこもり、孤独死や生活困窮は、きっかけや経緯は様々だが、本人やご家族が問題を抱え込み周囲と距離を置いてしまうことが多く、結果的に問題の長期化につながっている。どうすれば誰もが孤立せずに、安心して暮らすことができるかを考える機会とする。

【第1回】

開催日時

令和4年5月14日(土) 13:30～16:00

開催場所

学園都市センター12階 イベントホール(ZOOMにて同時配信実施)

プログラム・登壇者

- ・第1部 基調講演 法政大学 現代福祉学部福祉コミュニティ学科 宮城 孝 教授
- ・第2部 地域活動団体の実践報告
①石川子ども食堂 代表 新奥 匠 様 ②城山かわせみ塾運営委員会 会長 進藤 丕 様
- ・第3部 社会福祉協議会 CSW 活動報告 職員によるひきこもりをテーマにした寸劇披露
- ・第4部 パネルディスカッション

参加者

140名(会場参加:71名、ZOOM 参加:69名)

【第2回】

開催日時

令和5年2月25日(土) 14:00~16:00

開催場所

・ZOOMによるオンライン配信

・市内6カ所のサテライト会場にて同時配信

①石川市民センター ②大和田市民センター ③由井市民センター

④由木中央市民センター ⑤はちまるサポート川口(川口事務所2階) ⑥長房ふれあい館

プログラム・登壇者

・第1部 基調講演 NPO法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会 共同代表 伊藤 正俊 様

・第2部 パネルディスカッション

参加者

ZOOM-89名 各サテライト会場-41名 合計 130名

【第1回チラシ】

●地域共生のまちづくり推進フォーラム●

わたしたちが **いま** できること
8050? ひきこもり? 一緒に考えてみませんか?

5/14 (土)

子供の貧困や不登校の支援活動を実施する団体の話を聞き、新型コロナウイルスによって人と人とのつながりが希薄化した地域において私たちが、できることを一緒に考えます。

【時間】13:30~16:00(開場13:00)
【会場】学園都市センター12階 イベントホール
(住所:八王子市旭町9番1号八王子オクトーレ内)
【定員】会場 100名 (ZOOMで同時配信予定)

事前予約制
申込方法は要項参照

【プログラム】※一部内容を変更する場合があります。
【第1部】基調講演
法政大学 現代福祉学部福祉コミュニティ学科 宮城孝 教授
【第2部】地域活動団体の実践報告
①石川子ども食堂 ②城山かわせみ塾運営委員会
【第3部】社会福祉協議会CSW(コミュニティソーシャルワーカー)活動報告
【第4部】パネルディスカッション

※参加費は無料です・金庫自由席です・マスク着用の上お越しください・「手帳通釈」「要約情報」あり
※新型コロナウイルス感染症拡大状況次第では中止となる場合もございます、予めご了承ください。

主催: 社会福祉法人八王子市社会福祉協議会
(八王子市委託事業)

【第2回チラシ】

令和4年度 第2回 地域共生のまちづくり推進フォーラム

わたしたちが **いま** できること
8050? ひきこもり?

“ひきこもりや不登校は誰にでも起こりうることです。”
みんなが住みやすい八王子をつくるために「地域の未来のために」一緒に考えてみませんか?

2023年 2/25 (土) 14:00~16:00
(サテライト会場 13:30より開場)

プログラム

特別登壇者
【第1部】**基調講演**
KHJ全国ひきこもり家族会連合会 共同代表 伊藤 正俊 氏
「ひきこもりから日本の未来を考える」
社会の在り方、生活スタイルの変化など様々な環境の変化に戸惑いや不安を持っている方々を社会全体で受け止める理解を深めることで社会がもっと変わります。

【第2部】**パネルディスカッション**
伊藤 正俊 氏
*ひきこもり 指導員(八王子市高齢者あんしん相談センター職員)
*八王子市福祉協議会 地域活動推進員(八王子市ひきこもり支援総合事務局)
*八王子市福祉協議会 地域活動推進員(八王子市ひきこもり支援総合事務局)
*社会福祉協議会CSW(コミュニティソーシャルワーカー) (アソシアター)
*八王子市福祉協議会協議会 支えあい推進員 職員

【お申し込み・お問い合わせ】 八王子市ボランティアセンター 支えあい推進課 TEL:042-649-8477

主催: 社会福祉法人八王子市社会福祉協議会
このフォーラムは、八王子市より委託された重要な支援体制構築事業によって行われます。

【来場者の感想(一部)】

・とても意義のあるフォーラムと感じましたので、ぜひ毎年開催していただければと存じます。はちまるサポートセンターやコミュニティソーシャルワーカーはどのようなところでのどのような方々なのか理解を深める機会になりました。寸劇は感動しました。

・私は精神科病院の心理師です。私の立場ではお越しいただく方々への支援しかできず、その前段階の15つなぎの場面に立ち会うことは難しいのですが、そこに寄り添うみなさまの姿勢に日頃の自分の至らなさを振り返ることが多く、叱咤激励いただいたように感じながら聴きました。精神科病院に足を運ぶことは大変重い決断だと思います。その先の治療と支援に、さらなる責任を持って患者様ご家族様方に接していかななくてはならないと思いました。

八王子まるごとサポートセンター

★相談事例集★

【事例①】外国籍の母と課題を抱える娘 ～それぞれが進む道～

【事例②】住み慣れた家で生活し続けたい！

～地域での見守りと専門的な見守り体制の構築～

【事例③】30年以上ひきこもり男性が長髪を30cmカットするまで



※世帯構成の説明は「ジェノグラム」を使用して説明しております。

○は女性、□は男性、◎ □ は本人または相談対象者

⊗ ⊠ は亡くなった方を指しています。

事例①

外国籍の母と課題を抱える娘～それぞれが進む道～

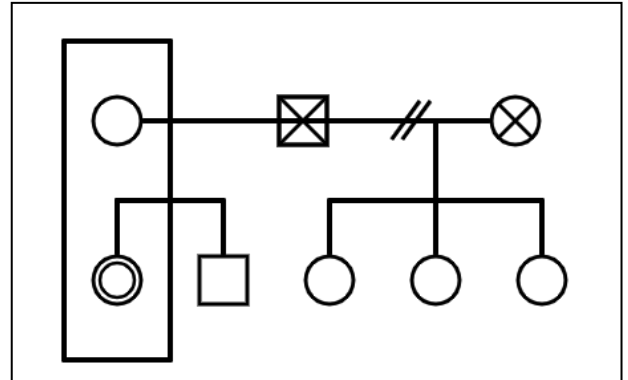
■相談者

父親が入院していた病院の
医療ソーシャルワーカー
(MSW)

■要支援

日本語が話せない外国籍の
母親を持ち、本人自身も課題を
抱えている娘

■世帯構成(ジェノグラム)



■相談の経緯と内容(本人、又は相談者からの困りごと)

- ・父親が入院している病院の医療ソーシャルワーカーより相談
- ・入院中の父親の体調は悪くなる一方だが、娘(本人)は発達障害と精神疾患の診断を受けており、母親は外国籍のため日本語でのコミュニケーションは難しく、家庭として機能していない様子
- ・医療費や携帯代など日々の支払いも滞っている様子
- ・市内別世帯で兄がいるが、兄も家族との関わりが希薄で、父親の前妻の娘が実質手続きなどを担っている状況

■CSWの働きかけ

- ・民生委員にも世帯について聞き取りを行い、顔見知りということで同行訪問を行う
- ・経済状況の改善が急務であったため、行政機関と連携し生活保護申請を行う
- ・本人の障害、精神状態に応じた相談支援機関、就労支援事業所へつなぐ
- ・本人がフォローできない範囲の母の支援として外国人支援団体へつなぐ

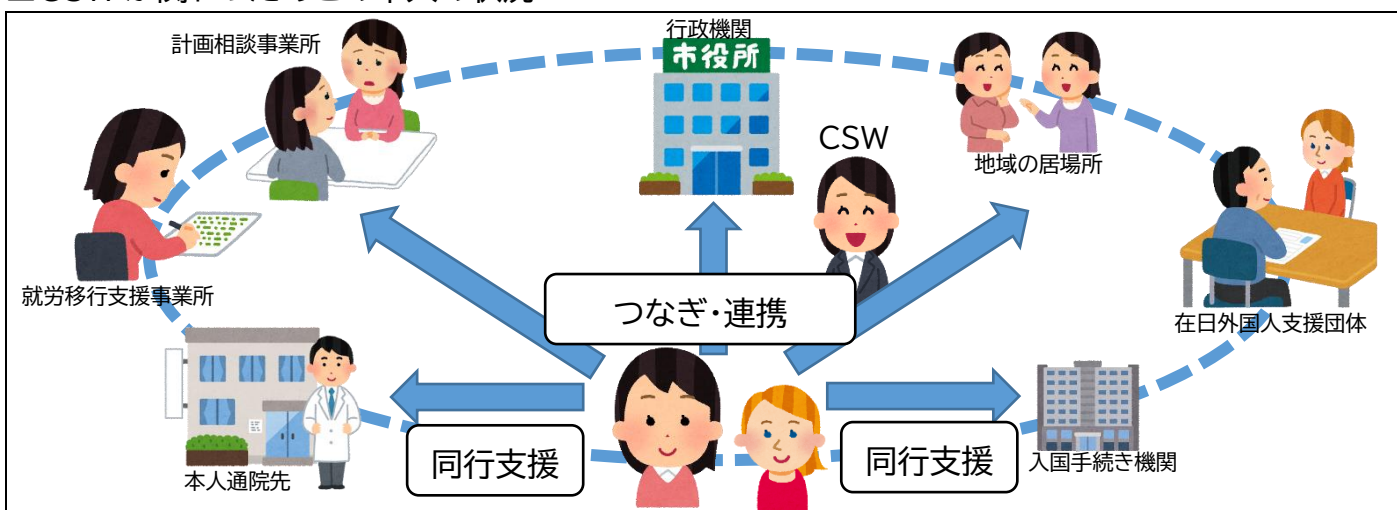
■CSWが関わる前の本人の状況



■支援経過

経過	CSWの活動内容	対象者	本人や周囲の変化
相談受付	・介入の方法やタイミングについて検討	MSW	
1か月	・民生委員と共に本人宅訪問し聞き取り ・親族からも聞き取りを行い、経済状況や本人の特性について情報収集	本人 親族	相談できる人ができてほっとしている様子
6か月	・世帯の金銭管理や、父親の逝去に伴う手続き等について支援 ・連絡調整が主となるが、母親の手続きや本人の体調面での聞き取りを行う	本人 親族	
一時期連絡が途切れる			
9か月	・親族より再相談、転居をしたがその後の生活にも困難さがある旨の話がある ・世帯の経済状況や母娘2人での生活を送る上でのトラブル等について聞き取り	本人 母親 親族	母親への対応に疲弊していたが、母親にも支援者が付くことを伝え安心した様子
10か月	・生活保護申請等に伴い市役所へ同行 ・本人の就労に関して聞き取りを行う ・母親に対して支援者をつけ、対応開始	本人 母親	経済面での見通しが立ち自身のことにフォーカスできるようになる
13か月	・相談支援事業所へ連携、就労移行支援事業所へつなぐ ・母親は外国人支援団体へつなぐ	本人 母親	自身の特性理解が進みコミュニケーションに変化が見られる
18か月	・世帯分離の方向で関係機関と連携	本人 母親	自身の未来への見通しが立ち前向きになる

■CSWが関わったあとの本人の状況



■現在の対象者の様子

- ・本人は相談員がついたことで、生活や就労など全般的に相談できている
- ・就労移行支援事業所での活動を通じ、自身の特性への理解や受容が進み、就労への考え、周囲の人との関わり方にも変化が見られるようになっている
- ・母親にも支援者がつき、手続き支援や相談先ができたことで本人の負担が軽減し、母親との関係性にも変化が見られる

■支援の振り返り(成果・CSWとして支援する上で気をつけた点)

- ・課題を抱える本人が、世帯の経済面を支え、言葉が通じない母親の手続きなどを担っていたため、母親にも支援者をつけ、本人が自身のために時間を使えるよう配慮しながら支援を行った
- ・本人が事業所利用に至るまでは、世帯の経済状況と本人の特性を見極めながらの支援が必要であり困難さもあった
- ・現在の障害者事業所と連携しながら本人の支援を行えていることは、日頃の地域内での関係機関とのつながりが生かされた場面であると感じた
- ・本人が現在自分の趣味や特技のために時間を使えるようになり、本人の喜びに繋がっていることをCSWも本人と共有できた

■今後の方向性

- ・本人は計画相談事業所や就労移行支援事業所と連携しながら自立に向けてのサポートを行っていくが、母親に関わる部分や傾聴など部分的な支援に移行している
- ・母親にも言語以外の課題があると思われるため、母国語で適切な福祉的サポート、医療的サポートを受けられる地域への転居に向け支援団体と連携しながら準備を進めていく

事例②

住み慣れた家で生活し続けたい！
～地域での見守りと専門的な見守り体制の構築～

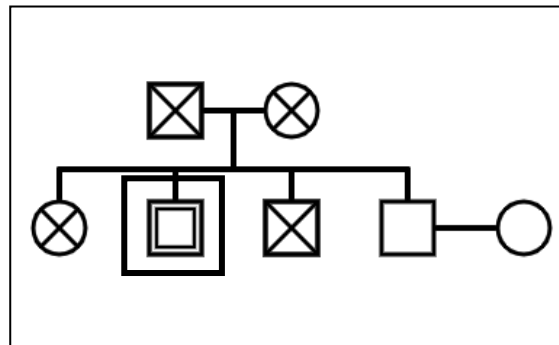
■相談者

八王子市役所職員

■要支援者

- ・50代男性、独居
- ・弟が市内にて別居中
- ・障害認定はないが、知的障害の疑いあり

■世帯構成



■相談の経緯と内容(本人、又は相談者からの困りごと)

- ・八王子市役所から、離職中の本人について「就労先を見つけ、生活が安定するまで地域の中で見守ってほしい」との相談を受ける
- ・自宅内は物が多く、整理ができていない状況
- ・判断能力、理解力に不安な一面があるものの、障害認定は無い
- ・本人は引き続き自宅での生活を継続しながら、就労したいとの希望がある

■CSWの働きかけ

- ・本人宅を定期的に訪問し、生活状況の確認や困りごとを確認
- ・納税相談へ同行
- ・携帯電話の契約手続きや、銀行での手続き、買い物などへ同行

■CSWが関わる前の本人の状況

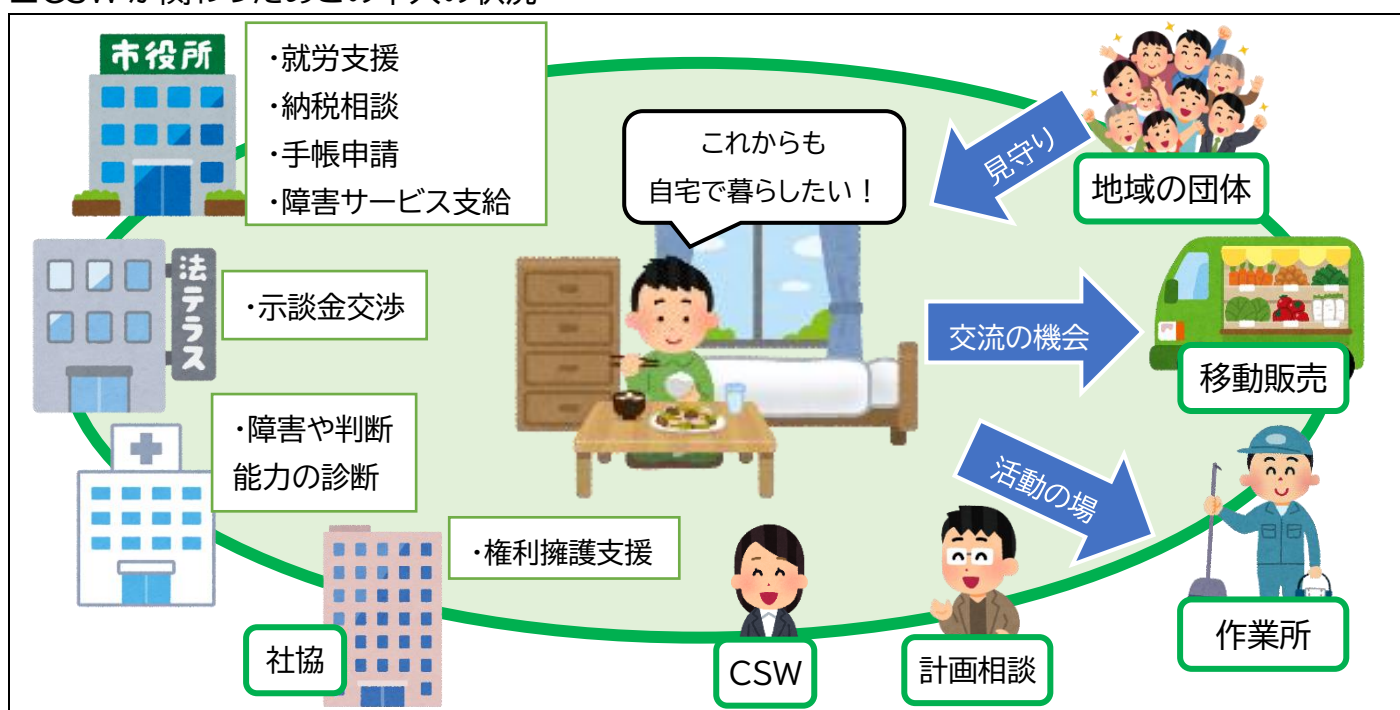


■支援経過

経過	CSW の活動内容	対象者	本人や周囲の変化
相談受付	八王子市役所より相談受付	市役所	本人離職中
1か月	・病院へ訪問し本人と面談	本人	・交通事故による怪我の為入院中 ・病院での支援開始
2か月	・退院時、地域の助け合い団体に移動支援を依頼し同行 ・本人宅近隣で移動販売車が毎週訪問するので、紹介し同行	本人 地域の団体 移動販売	本人が生活する上でのコミュニケーションが広がり始める
3か月	・本人宅の片付けを地域の助け合い団体と実施 ・携帯電話の契約手続きを支援	本人 地域の団体	・本人の状況を地域住民と共有し、見守り体制が構築 ・連絡手段が確保
4か月	・週に一度、地域の助け合い団体が訪問し、清掃と調理の支援を実施	地域の団体	・人の訪問があることで、生活にメリハリが生まれる
5か月	・知的障害の認定について病院と相談し通院開始	本人 病院	・障害者手帳の申請をすることに多少の抵抗感がある
6か月	・カンファレンス参加。保険会社との保険金手続きについて調整	本人 保険会社	・一人で保険金などの申請手続きに不安を感じている
7か月	・カンファレンス参加。障害者手帳の申請手続きや権利擁護の支援に関して調整	本人 病院	・障害者手帳の取得について同意される
8か月	・障害福祉サービスの利用開始ができるまで、本人宅への訪問を継続。生活状況の確認や、金銭管理の支援を実施	本人	・就労できずに自宅にいることに不安を感じる
9か月	・愛の手帳の申請について、関係者間で本人の生育歴等を情報共有 ・親族とも連絡を取ることができ、申請の際には同行していただけることとなる	本人 市役所 弟	・就労し、自宅で引き続き生活したいとの希望は継続
10か月	・愛の手帳の申請支援 ・本人より自転車を修理したいとの希望があり、自転車屋へ同行 ・交通事故の示談金交渉について、法テラスに相談	本人 市役所 法テラス	・保険金の手続きが進むことで、安心する
11か月	・カンファレンス参加。本人の今後の生活について話し合う	本人 市役所	・障害福祉サービスの導入について抵抗感はない

12か月	<ul style="list-style-type: none"> ・B型作業所の見学・体験実施 ・障害福祉サービスの計画相談担当決定 	本人 計画相談	<ul style="list-style-type: none"> ・日中の活動の場が見つかり、意欲的に参加される
13か月	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンス参加。関係者での役割分担を再確認 	関係者	
14か月	<ul style="list-style-type: none"> ・自立生活援助の支援開始 	本人	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な訪問や相談先が増え安心する
15か月	<ul style="list-style-type: none"> ・作業所へ正式に通所が決定(5日/週) ・カンファレンス参加。本人の親族も参加 今後の支援について共有する 	本人	<ul style="list-style-type: none"> ・やりがいを感じている
16か月	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に訪問し状況確認 		
17ヶ月	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に訪問し状況確認 		
18か月	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者被害に遭い、市役所に相談へ行く ・本人の今後の生活を考慮し、成年後見制度の利用を提案する 		

■CSW が関わったあとの本人の状況



■現在の対象者の様子

- ・地域住民の助け合い団体を利用したことで、本人と近隣住民の関係性が生まれ、継続的な見守り体制を構築することができた
- ・移動販売車が自宅近辺で活動しており、食料品などの購入が便利になった。また、その場でも地域住民と顔見知りの関係になり、声を掛けあえる関係になった
- ・通所と訪問のサービスを開始し、自宅に閉じこもりがちであった生活から活動性が出てきた

■支援の振り返り(成果・CSWとして支援する上で気をつけた点)

- ・本人の意志を尊重しながら、自立した生活ができるような支援策を提案することができた
- ・定期的に訪問や電話をすることで、本人の生活の変化に気づくことができた
- ・関係機関とこまめに連絡を取り合い、カンファレンスなどの会議を開催することで、本人の状況や支援の進捗状況を確認することができた

■今後の方向性

- ・本人の能力や希望に合わせながら、就労移行支援や障害者雇用での勤務方法を検討する
- ・本人の判断能力次第では、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の利用を検討する
- ・親族や支援者との関係性を継続し、必要に応じて本人を見守っていく

事例③

30年以上ひきこもり男性が長髪を30cmカットするまで

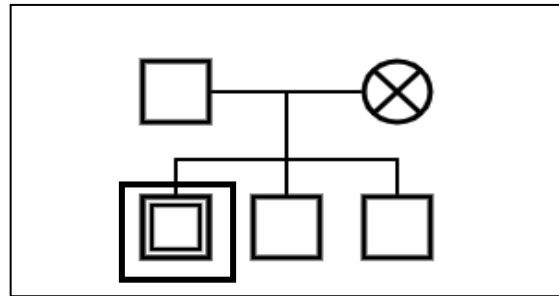
■相談者

高齢者あんしん相談センター
(以下包括)

■要支援者

30年以上ひきこもり男性
一戸建にて1人暮らし

■世帯構成



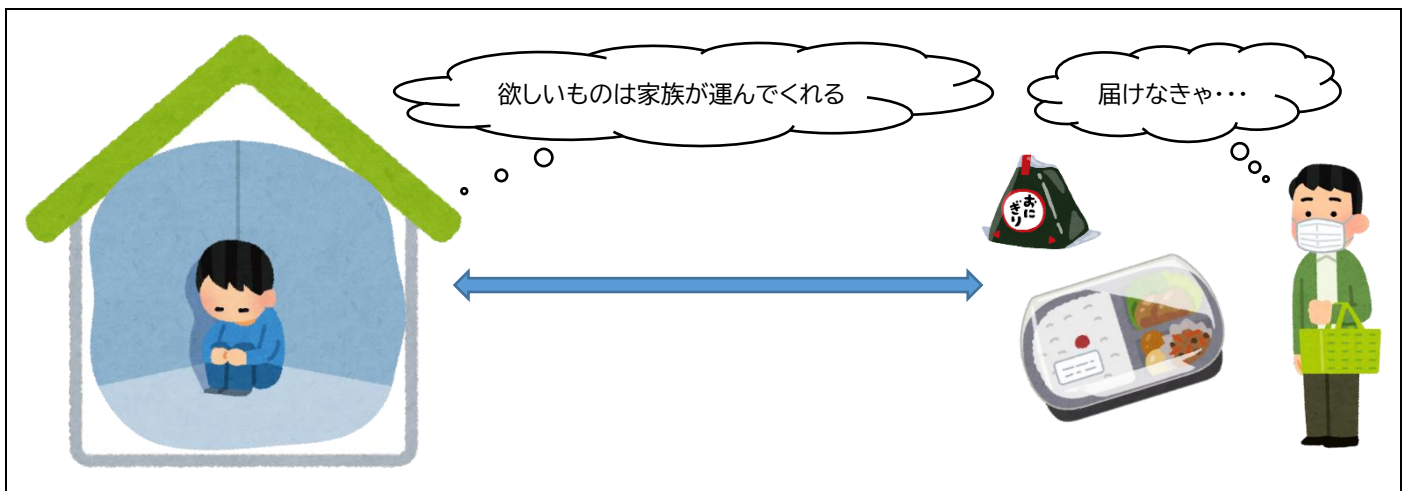
■相談の経緯と内容(本人、又は相談者からの困りごと)

・父親の支援をしていた包括から連絡があり、そこにひきこもりの息子(高校生の時から30年以上ひきこもり状態とのこと)がいることが判明。地域ケア会議に出席し、CSW の関わりが始まった

■CSW の働きかけ

- ・信頼関係を築くためのアプローチ
- ・本人の考え、意思を尊重し寄り添う

■CSW が関わる前の本人の状況



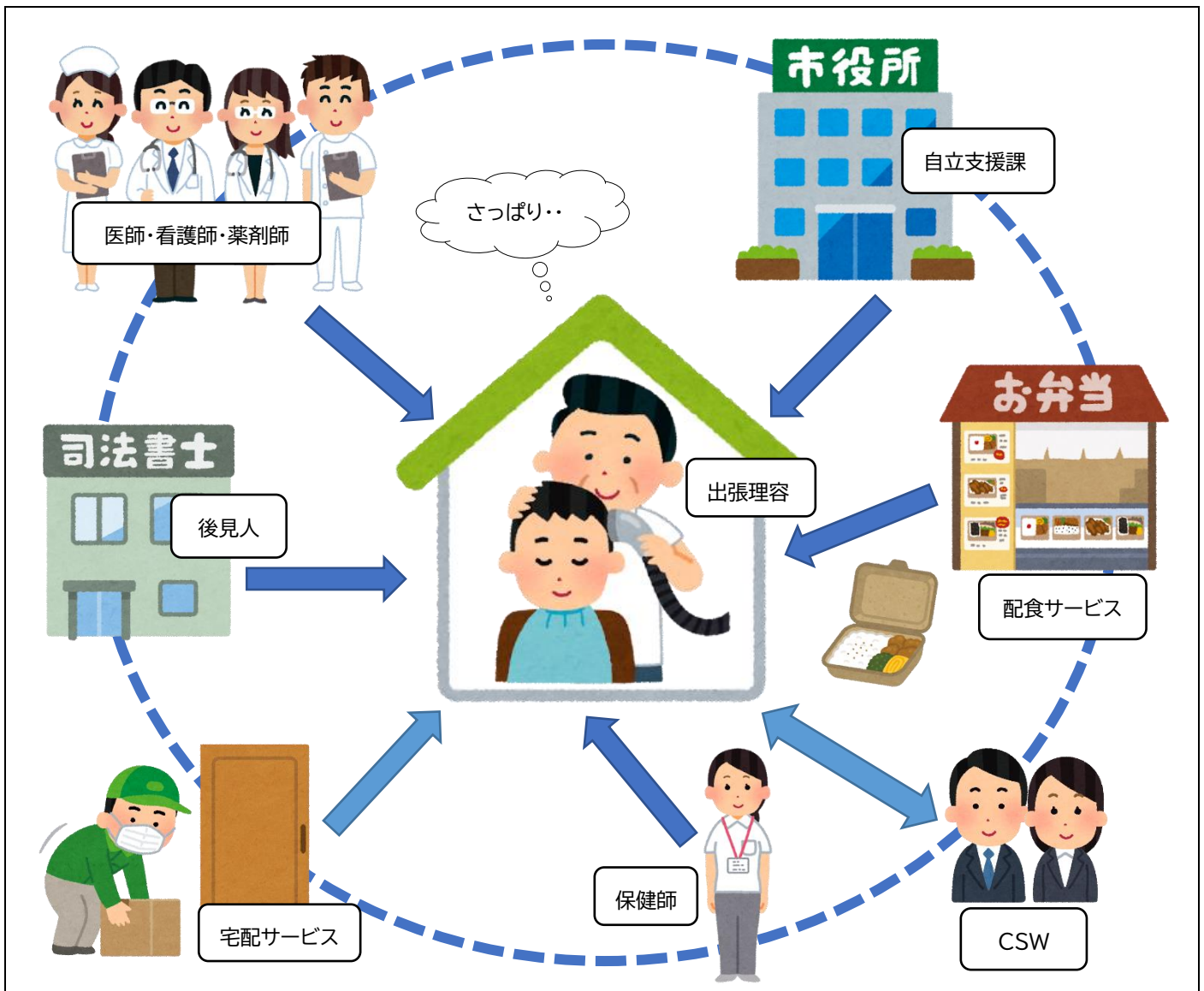
■支援経過

経過	CSW の活動内容	対象者	本人や周囲の変化
相談受付	・地域ケア会議に出席し情報共有	包括・市役所・保健所	関係機関で状況把握と支援の検討
1 か月	・八王子市ゴミ減量対策課と共に訪問	本人	本人には会えず
2 か月	・地域ケア会議に出席	包括・保健所・市役所・司法書士	包括→父親 保健所→本人と弟たち(次男・三男) 支援の役割分担

10か月	・地域ケア会議に出席	包括・保健所・市役所・司法書士	情報共有
1年3か月	・弟(三男)とメールでのコミュニケーションを開始 ・本人への伝言などを頼む	弟(三男)・本人	弟(三男)経由で本人へのアプローチ開始
1年10か月	・カンファレンス開催	保健所・市役所・司法書士	担当保健師変わる
1年10か月	・保健師と共に訪問・ドア越しに声掛け	本人	本人には会えず
1年11か月	・保健師と共に訪問	本人	部屋の扉を50cmほどあけてくれる!
↓	・弟(三男)宅の部屋清掃・片付け	弟	弟(三男)の自立→本人直接アプローチの開始
2年	・司法書士(顔合わせ)と共に訪問	本人	2階の自室からおりてくる
↓	・CSW2名で部屋の片づけ・清掃 ・訪問診療立ち合い	本人	玄関ドアを自らあけてくれる
↓	・弟(三男)生活保護申請支援(他市)	弟	弟(三男)経由でのアプローチが終了
2年1か月	・配食サービスの手配	本人	買い物リストなど、要望のメモ書きをCSWに渡してくるようになる
↓	・給付金受け取りのための書類作成支援	本人	CSWの説明を理解し署名する
2年2か月	・カンファレンス開催(訪問診療医師・保健師・自立支援課・司法書士・CSW)	本人	要望をメモ書きし渡してくる
↓	・電話回線を復活させ、コミュニケーション手段としてFAXを使えるように設定	本人	FAX使用の提案を受け入れ、使い方の説明に耳を傾ける
2年3か月	・看護師による足浴、シャンプー介助のヘルプ支援 ・その場で散髪の提案をする	本人	散髪の提案を了承してくれる!
↓	・出張理容立ち合い ・散髪の際の写真を撮ってもよいか確認	本人	真正面以外、撮影を了承してくれる 約30cm髪をカット
2年4か月	・訪問診療立ち合い ・前回散髪時に撮影した画像を見せる	本人	自分の髪型の変化をじっと見る様子あり
↓	・本人から始めてFAXが届く→FAXで返信	本人	自分の考えを文字で意思表示する

現在	・今後のことについて司法書士(後見人)を交え、支援の方向性について提案と本人の意思を確認	本人	話しの内容を理解し質問してくる 要望が増えてくる
----	--	----	-----------------------------

■CSW が関わったあとの本人の状況



■現在の対象者の様子

- ・欲しいものなどの要望が増えてくる
- ・CSW の提案などに対し、自身の考えを伝えてくる

■支援の振り返り(成果・CSW として支援する上で気をつけた点)

- ・信頼・関係性の構築
- ・本人の気持ちをひきだす

■今後の方向性

区画整理地内のため立ち退きの必要性があり、自立した生活に向け検討・支援に寄り添う

はちまるサポートの活動から見えてきた 地域課題と今後の方向性

平成26年より活動を開始したはちまるサポートは、令和5年に9年目を迎えました。八王子市と協力しながら、年々体制を整え、令和3年からは、八王子市が取り組む重層的支援体制整備事業(以下「重層事業」)の一部を社協が受託し、はちまるサポートは、包括的な相談支援の窓口として“福祉なんでも相談”を掲げ、令和4年度末12カ所で事業展開しています。

これまで、はちまるサポートが相談支援に応じている地域生活課題は広範囲にわたりますが、中でも近年社会問題化している、ひきこもり、高齢の親に経済的に依存し生活する中年層(8050問題)、ごみをため込み不衛生な環境で生活を送る(ごみ屋敷)などの課題を抱えている方々と直面しています。

このような状態の方々の相談支援の過程から、直接に、間接に想いや情報を聞き取り、状況把握を進めると、課題を抱えている方々の多くが、頼れる人がいない、あえて付き合いなどを避けている、セルフネグレクト(自己放棄)、精神的な課題を抱えている等の状況が把握され、総じて人や社会とのつながり、関係性が希薄となっている状態で生活を送っている様子を肌身に感じます。さらに、社会全般では、新型コロナ禍により人と人との関係性の希薄化は進み、また、経済的困窮なども重なり、課題の複雑複合化が顕著となってきています。

“つながりや関係性の希薄”については、解決すべき地域課題として国や地域社会、社会福祉関係者において様々な取り組みがこれまでもなされてきました。新型コロナ禍を経験し、その深刻さの度合いも増している今、国では、令和5年6月に「孤独・孤立対策推進法」を公布し、社会全体のつながりの希薄化による孤独・孤立を喫緊の課題と捉え、総合的な対策を推進する取り組みを始めました。

現在、はちまるサポートでも、生きにくさを抱え、孤立しがちな方々に活用いただく「はちまるファーム」や課題の早期発見・対応に向けて住民の皆様のご協力を得て「はちまるサポーター」を設置していくなど、地域の中で、人と人が相互に関わり合う仕組みづくりを通じて、孤立・孤独の解消に向け、少しずつではありますが取り組み始めています。

今後のはちまるサポートは孤独・孤立にいつそう目を向け、課題を抱えた方への支援とともに、地域社会の中で、人と人との関係性を豊かに、それぞれの人が持てる能力を発揮し活躍できる地域社会づくりに向けた諸活動に取り組んでまいります。

令和3年度・4年度

八王子まるごとサポートセンター（はちまるサポート）
活動報告書

令和5年(2023年)9月

発行 社会福祉法人 八王子市社会福祉協議会

編集 八王子市社会福祉協議会 支えあい推進課

八王子市横山町 11-2 金子ビル 4階

電話 042-649-8477 FAX 042-649-8478